

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	大阪府堺市北区長曾根町1199-6		
自己評価作成日	平成 22年 3月 15日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770103782&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 4月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が将棋をしようとしていたら、もう一人が相手をしたり、時には他利用者の家族が相手をしたり、歌をうたっていたら職員も一緒にうたいながら楽しんで、作業や調理を一緒に手伝ってくれたり、家族の方が散髪してくれたりと普段からの何気ない1コマが利用者、家族、職員でつながっており、「みんな大切な家族」という思いをスタッフ皆が持っている。また、利用者や家族にもその様に思ってもらえるように信頼関係を大切に、皆で支えあっている関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元で農家を営む初代理事長が、「いつでも、誰でもが利用できる施設を作りたい」という強い思いにより、昭和58年に特別養護老人ホームを創設し、現在では高齢者、障がい者、乳幼児保育等の総合福祉施設を運営している社会福祉法人です。グループホームは8年前に3ユニットで開設し立地条件もあり、各ユニット6名定員となっています。職員の離職がほとんどなく、経験年数も長く、一人ひとりの尊厳を守り、「できるだけやりたいことを、やりたいように」を実現し利用者満足を大切にしながら質の高いサービスを提供しています。地域との交流も深く、運営推進会議にも、ボランティアだった方や施設に興味のある地域住民が参加し積極的な情報交換を行っています。地域で行われる季節の行事のお誘いがあったり清掃活動にも参加し、事業所が地域と孤立することなく、また利用者が地域とつながりを持った暮らしを継続していきける支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれた施設」として取り組み、自施設の「理念」を、常に目の届くところに掲示し、職員一人ひとりが日々理念に基づいたケアを意識するよう心掛けている。また、理念に基づいた「寄り添った関わり」がプランに反映出来る様にカンファレンス等行いチームとして実践できるよう取り組んでいる。	「地域の中で共に支え合い、地域と共に歩む」を理念のメインテーマとし、その他に「ゆったりとした自由な暮らし」「穏やかで、やすらぎのあるある暮らし」「自分でできる喜びを感じる暮らし」「自分らしさや、誇りを持った暮らし」の内容を意識しながら各ユニットで話し合い、それぞれの個性を生かしたケアに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	校区の行事や自治会の清掃活動に声を掛けてもらい参加している。近所への買い物や散髪に行った際は顔なじみになり店員さんや近隣の方々とのふれあいがある。	地域で行われる、餅つき、焼き芋、七夕などの行事には地域からのお誘いもあり、利用者、職員も参加しています。法人が主催する夏祭りや納涼大会にも地域の方が参加し、交流を図る機会を持っています。また近所の保育園の慰問や地域の学校から小学生が訪れ、利用者と一緒に作品を作るという交流も行っています。地域の清掃活動にも利用者が参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	法人内在宅介護支援センター主催の介護者教室にて地域の住民を対象に認知症を理解するための寸劇を行い、日々、認知症の方々と関わっている中で大切なことや、知ってもらいたい事を伝えられるように取り組んだ。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者にビデオやスライド上映で普段の生活を知ってもらう。その中でもっとこうすれば良い等の意見を頂いている。また利用者間の行動障がいに伴う人間関係についての問題提起も行き、委員会にて解決法を話し合う機会も持たれた。	年6回の運営推進会議が定期的に実施されています。参加者は、利用者、家族、民生委員、知見者、地域包括支援センター職員、そして、ボランティアの方や、施設に興味のある近隣住民の方にも声をかけ行われています。ビデオで、利用者の日常生活の様子や暮らしぶりを伝え、おやつを試食もしてもらっています。会議の中で、利用者の食べ物の好みを聞き、地域の行事の際にはそれを考慮し、取り入れることもあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進委員会メンバーに地域包括支援センターの職員が含まれ、また研修を受け入れることにより取り組みや実情を伝えている。	管理者が、市の人権推進協議会の役員を務め、2ヶ月に1回の会議にも出席しています。市役所の方から、入居相談を受けることもあり、常にお互いが協力し合える関係作りができています。また生活保護の担当ケースワーカーも定期的に訪問があり、その際に状況報告を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>何気ないことが身体拘束になっていないか、常に職員全員で確認し、日中は玄関の扉を開き自由に出入りしてもらっている。利用者の方々の居場所も常に、声を掛け合い確認し合っている。外へ行きたそうな様子の時は、職員が付き添い一緒に散歩に行く時間を設ける。職員間で指摘し合い11項目以外のスピーチロックにも注意している。</p>	<p>身体拘束禁止の指針を作成し、日頃から職員同士で気がつくことがあればすぐに言葉を掛け合い注意するようにしています。また勉強会などでは、職員の対応や言葉使い、スピーチロック（言葉で言動を制止する）等を振り返り、話し合う機会を設けています。家族から車いすのベルト固定や、過剰なベッド柵設置の依頼がある場合、家族には身体拘束について事業所の意向を伝え、理解していただくよう努めています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内に身体拘束廃止・防止委員会を設置している。勉強会も行いマニュアル等を含め虐待について周知している。新任者にも同様に学ぶ機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できる様支援している</p>	<p>勉強会や文献、法人からの情報などで学んでいる。また、機会があれば研修に参加しスタッフ間で周知できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時に時間を作ってもらい、できる限り丁寧に説明するよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自身の考えを表すことが困難な利用者でも日々の関わりの中で汲み取るよう努めている。法人内に苦情対策委員会を設置しており、改善策や今後の対応を検討している。意見ボックスや外部の苦情相談窓口の掲示をしている。また、家族は意見や要望が言い難いということを踏まえた上で、言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	年4回、行事参加の様子や生活状況を写真入りの「たより」で家族に郵送し、その際に職員が手紙を添えることもあります。年3～4回の家族会では職員と家族との間でコミュニケーションをできるだけとり、意見や要望が出やすい雰囲気作りに配慮しています。昼食の試食会も行い、家族の意見も取り入れるようしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会にて意見等を聞く機会を設けている。また、利用者との関わりの中での気付きや疑問に思ったことなどは、適宜意見を出し合う会議を設け、検討し反映させている。	各ユニットで話し合った意見をまとめ、月1回の全体会議で報告し、他のユニットからの意見も参考にしています。各ユニットのリーダーが職員の常勤、非常勤にかかわらず意見を聞く姿勢を持ち、そこから出た意見は苑長に伝え改善に向けて相談・検討をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議にて職場環境についてなど意見が拾えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通した計画において、研修の機会を得ている。研修の記録や参考資料は勉強会にて参加職員へ伝達しており、勉強会に参加していないスタッフにも回覧してスタッフ全員で情報を共有出来る様工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区グループホーム会にて情報交換・事例検討・さらに全体会として堺市内の事業所の代表が集まり、勉強会・意見交換が行われ、そこでの学びと職員に伝達している。職員同士の交流の機会が必要である。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、話しをして頂けるような人間関係の形成に力を入れている。その上で抱えている問題や不安等を傾聴ししっかりと、形にして返す様心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員はありのままの姿で接して、安心感を持ってもらう事で、家族の方が何でも言い出せる雰囲気を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性に応じた支援を、緊急性の度合いを考慮して行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜びや、不安を分かち合い家族と同様の関係に近づけるよう努めると共に利用者から学ぼうとする謙虚な姿勢と敬う気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の暮らしぶりを細かく伝え本人の状態を把握してもらい、時には、外出の機会を作ってもらっている。家族との絆を大切につなぎながら共に本人を支えていける関係作りを築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人はもちろん、家族にもなじみの場所などを聞き、以前から利用していた理髪店に出かけたり、近所の知人の訪問があったりなど、つながりを継続しようとする支援に努めている。	昔住んでいた家を思い出した利用者、職員がついて一緒に自宅まで帰ったこともあります。入居前からの友人に電話をかけたり、近所の顔見知りの方が同法人のショートステイを利用した際に会いに行ったりする等、馴染みの関係が継続できるよう支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが円滑になるように必要に応じて、職員が間に入っている。また、将棋など共通の趣味を持っている人同士に対局を勧めるなど、利用者の新たな関係作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も家族としてのつながりを実感できるよう努めている。今回は家業を通じての関係が継続しているケースであり、来苑の際は思い出話などしながら、ゆっくりと過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志を表現することが困難な利用者でも何気ない言葉や行動の中から思いを汲み取るように努め、職員で共有し、さらに検討し、その思いに近づいているのか常に利用者の視点に立つよう心掛けている。	日常生活の中で、利用者に関わっている時、ふとした瞬間に出た言葉や話を大切にし、すぐにメモをとったり、ケース記録に残すことで、職員間での共有を図りケアに役立てています。また、家族に今までの暮らし方や趣味などを聞き、利用者の希望や意向の把握に努め、一人ひとりに合った支援を心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人への確認以外にも、家族、知人、友人より情報を集めている。また、過去のサービスの記録からの情報も含めて、援助を行う上での要素にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中での行動や様子、言動など記録するだけでなく、職員同士の口頭での情報の共有にも努め、必要に応じて看護師や他ユニット職員とも協力し事実が有意義な情報となるよう問題意識を持って関わるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちを元に、家族の希望も含めたカンファレンスを行い、気付きを含めた利用者本意のプラン作成に努めている。モニタリングは予定月に限らずその都度、話し合い、その時、その時の状態に反映したプランとなるよう情報を蓄積し作成に取り組んでいる。	ユニット毎にカンファレンス、モニタリングを行い、6ヶ月に1度介護計画の見直しを行っています。介護計画は家族にも説明し、署名をもらっています。家族からもできるだけ意見を聞き、反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケースに記録していく中で気になる言動など備考欄へ記入しプランへの立案を要する案件に関してはマーカーをいれて分り易く示している。また、プランから実行、実行からプラン変更へと関わる事項に関しては番号等で分り易く明記し、評価へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、終末期、若年性、ショートステイの受け入れの体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや家族友人職員の家族が自由に入出できる雰囲気を作り様々なインフォーマルな資源を活用できるよう模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設管理医師、看護師と連携を図り、必要に応じた医療機関へ受診している。また、家族の協力も得て、希望があれば以前より通院していた病院へ継続していけるように対応している。	法人診療所のドクターが主治医となり、利用者の健康管理を行っています。緊急時は24時間いつでも連絡が取れ、指示を仰ぐことができます。本人、家族が希望する医療機関へは、家族の協力のもと継続して通院しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師だけでなく、介護職員も身体の状態を観察し異変等見られた際には直ちに看護師へ連絡している。また、ケース記録に記入してもらうことにより介護職への情報の共有となり、一貫したケアを行う事が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会にて様子や経過を把握し、病院関係者からも情報を伝えてもらっている。また、本人が安心して帰ってこられる様に「みんなが待っていますよ」等、皆に必要とされ、帰るところがある事を伝えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に関する希望を前もって聞いて置き、どのような最後を迎えられたいのかを汲み取るように努めている。長い目で見た支援体制の整備やいざと言う時の対応を日頃から話し合っている。</p>	<p>いつでも看取りができるよう、職員とは日頃から「看取りをすることは、今の生活の延長上にあること」という意識を持って、勉強会等を通じて知識深め、不安の少ないような取り組みをしています。看取りについては、主治医、家族、職員との話し合う機会をもち、関係者が連携して支援に取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会などで職員は救命処置についての講習を受けている。また、応急手当や緊急時の対応についても話し合い、マニュアルも目の届くところに配置している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に利用者と共に避難訓練を行っている。校区の消防署にも参加してもらい。助言や確認をしてもらっている。その都度マニュアルに追記や訂正を加え改善にも取り組んでいる。</p>	<p>自主消防避難訓練を2ヶ月に1回実施し、年2回は消防署の協力のもと消防訓練を行っています。避難時の歩行度合（歩行能力、認知能力）の一覧を作成し、職員が共有することで、スムーズな避難誘導が可能になっています。災害時に備え、水や乾パン等を備蓄し定期的に点検しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を常に自覚し、馴れ親しみを持った中にも、言葉使いや呼びかけに気をつけている。また、お互いに言葉使いが気になる点などは職員同士、声を掛け合い、適した言葉、声の大きさ、タイミングなどにも注意を払った関わりをするよう心掛けている。	入社時には、全職員に対し守秘義務の誓約書をとっています。利用者の尊厳を重んじ、プライバシーに配慮したケアを心がけています。利用者に対する言葉使いで気になることがあれば、すぐに職員同士で注意するなどしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身の自己決定が出来るような声掛けし、また意志を表現できるような接し方を心掛けている。介護者の考えを押し付けず、本人の意志が出るのを「待つ」援助を心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少し休みたい方は居室やソファにて休んでもらったり、落ち着かないときには職員が側に行き話相手になったり、散歩へ出かけたりと、あくまでも利用者優先の支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて職員も服を選んでいる。自身で選ぶことが困難な方でも、家族の方に依頼して服を購入してもらったりしている。また、定期的に散髪に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に朝・昼食・夕食材料をもらいに行くことから盛り付け、食器の片付けを自ら行ってくれる。それぞれが出来る働きを楽しんで活かすことが出来るよう努めている。また、職員も同じテーブルと一緒に食べ、楽しい食事の時間になるよう雰囲気づくりに努めている。	朝・昼食は同法人の厨房から調理された食事が届けられ、盛り付け、配膳の手伝いを利用者と一緒にしています。お箸、湯呑は各自気に入ったものを使っています。誕生日には本人の好みを聞き、メニューに取り入れています。借りている菜園から野菜を収穫してきた時には野菜の皮むきなど利用者ができることをお願いすることもあります。職員も一緒に食事を摂り、会話も弾み、楽しい食卓で家庭的な雰囲気となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事状態を観察し、食事量、水分摂取量などの把握に努めている。利用者の状態や好みに合わせ、刻み食にしたり、甘口にしたりなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じて歯磨き粉や、ブラシ、口腔ケアの声掛け、義歯の手入れを行っている。口腔ケアが困難な方、特に必要な方に関しては毎週歯科受診にてケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、要介助の方、声掛けを要する方の排泄パターンを把握しトイレで気持ちよく排泄できるよう努めている。また、利用者からのサインを見逃さず、トイレへの誘い方・声掛けの仕方など統一した援助が出来るよう日々話し合っている。排便状況も把握し看護師と連携を取っている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄のタイミングを職員が把握して、誘導や声かけを行っています。排泄の失敗があっても、誘導時間、紙パンツ・パットの見直しを行い、その方に合ったよりよい支援方法を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせ、ヨーグルトやオリゴ糖を摂取してもらっている。また、体操を毎日少しずつでも行えるようにしている。看護師へ排便状況を伝え内服のコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に入浴の希望があった時は、その都度その方に合わせた湯温に調節している。入浴剤なども利用しゆったり入ってもらえる工夫も行っている。拒否する方も、無理には誘わず、時間を開けて再度誘ってみたり、快く入った時はどのような声掛けを行ったのかなどを検討し情報を共有出来る様努めている。	各ユニットで、利用者の希望に合わせて時間帯や回数を調整し、利用者一人ひとりにそった支援を行っています。入浴を好まない利用者には入浴剤等を利用し、気持ちよく入浴してもらえるような工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	その都度、利用者の状態に合 わせ、声を掛けたり寝室へ案内 している。一人ひとりの睡眠時 間を把握し、夜眠るのが遅か った場合など様子を見ながら、 朝食の時間をずらすなどしてゆ っくり休んでもらっている。ま た室温の調節や体位などにも 気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	個々のケースファイルに服用し ている服薬の情報を添付してお りいつでも確認できる。必要 に応じて服薬介助や確認を行 っている。また、誤薬のない様 、薬を渡す際声に出して名前や 時間帯、日付を読み上げ確認 を2重にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	「出来ることが、できる支援」 を念頭に些細なことでも利用 者自身が自ら行う気持ちを大 切にしている。また、時には 職員が誘って一緒に取り組ん でもらい、出来る事への喜び を引き出せる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の気分や希望に合わせ、庭先や近隣の公園に散歩に出かけたりしている。目的地や本人の状態に合わせて、車椅子を使用する等、外出に前向きになってもらえる取り組みをしている。また、家族の協力を得て、散歩や外食などの支援も行っている。	利用者の希望や習慣に合わせ、喫茶店や外食等個別で出かけています。日常的には近くの公園に散歩に出かけ、少しでも外気に触れられるよう外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り自己管理してもらい、お金の支払いや、所持に対して意識を持ってもらうように働きかけている。また、支払いは出来るが管理は難しい方でも、残高をケースに定期的に確認し記入することで、本人の管理下で使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個々で携帯電話を使用している方、また希望があった際など、家族へ電話連絡を取っている。また、手紙も送り近況を伝え合っている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は二重窓になっており、外からの騒音を防ぎ、照明も眩しすぎず、柔らかい雰囲気を作り出す、黄白色の照明を使用している。空調はその都度調整が可能である。トイレには分りやすいように目印をつけている。また、居室には家族の写真や自作品などを飾り馴染みの空間作りに努めている。	居間には一人掛けや二人掛けのソファがあり、思い思いの場所でくつろぎ、他の利用者と一緒に話をしたりすることができます。季節の花を飾り季節感を感じられる工夫もしています。居間と居室が別フロアとなっていますが、エレベーターも自由に乗ることができ、自由に行き来しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に一人掛けや二人掛けのソファを、居室前にもソファを置き、思い思いに過ごしてもらえる様にしている。時には居眠りをしたり、横になったり、家族や友人と触れ合う、くつろげる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い勝手が良い、配置になるよう家族の方も交え話し合っている。個々によって、畳を敷いたり、作業をする机を増やしたり、写真や絵などを並べたり住みやすい環境へと近づける様努めている。	居室にはベッド、机、洗面台の設置があります。昔からの趣味で得意だった絵画の道具や自分が描いた絵を飾り、利用者が居心地よく過ごすことができる工夫をしています。利用者の希望や状態に合わせて、フローリング、畳敷きの部屋を工夫して利用者にあった居室作りを工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由にエレベーターが使用できるようにしている。見守りや、声掛けにより事故に対しても配慮している。苑内は必要に応じて手すりを設置しており、安全に過ごしてもらえる様に努めている。場合によっては手すりを増設するなどの対応をしている。また、手すり付近へ障害となるものはないか常に確認している。		